

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第1回弘前市立博物館協議会
開 催 年 月 日	令和5年12月13日（水）
開 始 ・ 終 了 時 刻	開始：午前10時、終了：11時52分
開 催 場 所	弘前市民会館 第2小会議室
議 長 等 の 氏 名	瀧 本 壽 史 委員長
出 席 者	委員長 瀧 本 壽 史 副委員長 蝦 名 敦 子 委 員 山 本 正 弘 委 員 櫻 庭 全 一 委 員 三 上 隆 博 委 員 大 川 誠 委 員 三 上 雪 路
欠 席 者	委 員 北 原 かな子 委 員 出 佳奈子
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	博物館長 熊 谷 義 昭 主幹兼運営係長 高 橋 貢
会 議 の 議 題	(1) 令和4年度事業報告 (2) 令和5年度事業計画及び経過報告 (3) 令和6年度事業計画(案)
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会 議 資 料 の 名 称	令和5年度弘前市立博物館協議会資料
会議内容（要旨） （ 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 ）	【案件1意見】 委員：展示会の観覧者の一覧表があるが、共通券というのはどういうことなのか。相当お得になっているということか。 事務局：共通券というのは当館と高岡の森弘前藩歴史館、2館で使えるチケットで料金が多少安くなっている。 委員：各々がいくらかで共通だといくらかなのか。あまり知られていないのかなど。 事務局：ホームページの方には掲載はしていて、受付にそういうのがあると掲示している。 委員：券自体が違うのか。 事務局：違う。スタンプを両方押すかたちで、買ったところでスタンプを押し、次のところにもって行って、というかたちになる。 委員：期限は無期限ということでもいいか。 事務局：そうになっている。ただ特別企画展では使えない。 議長：展示事業で開催期間が283日で、365日から休館日をとると5、60日が空いている。

事務局：展示替え期間であり、1回の展示替えでほしい2週間、維持管理作業などで伸びる場合もある。

議長：常設展の充実というのが大事だと思うが、展示室が特別展でとられてしまい、これが市博の展示だという常設展を見る場面が非常に少ない。たくさんの資料を持っているし、そういう点からいけば、普段見る常設展の充実というのが大事だと思う。ほかの施設を見ると、常設展が基本となっていて、その間にいくつか企画展をやっているが、その常設展が見られないというのが非常に寂しい。ここならではのものというのがあるので、常設展を基盤とした企画展というのを基本としていく方向性も考えていく必要があると思っている。もう1つは、企画展が多いということは一見いいようではあるが、準備する学芸員、職員の仕事がハードになる。学芸員が基本的な力を蓄えていくような期間というか時間をとれればと思っている。展示品の借用にあたっては、博物館の力、学芸員や職員の力が見られる。また、企画展を5つやるというのは大変なので、1つぐらい減らしても常設展のところで見せていくということがあってもいい気がする。観覧者のところで26,700人ということであるが、毎年目標値を定めていなかったか。

事務局：総合計画では以前3万人としていた。今は計画に入っておらず、令和に入ってからにはコロナがあり、かなり減ったりしたが、目標としてはそれくらいは見ていきたいと考えている。

事務局：平成26年度は3万6千人になっているが、それ以降は2万4千人前後で推移し、コロナのときで1万3千人前後くらい、昨年度が2万6千人ということなので、盛り返しはできたが、3万人までは行っていないという状況である。委員：3万人というのは有料も無料もあわせて。少なくとも有料の方が多ければそれなりに入るとは思う。平成26年は3万6千人いったという話だが、そのうちの無料が何人とか有料が何人とか。

事務局：有料が19,897人、無料が16,218人で、収入としては9,691,520円となっている。この金額は、昨年度は26,751人だったが、その収入額は9,523,560円となっている。昨年度の有料が16,826人で無料が9,925人ということなので、特別企画展、昨年度であればダリが1万人ぐらいなので、金額に反映されたと分析できる。

事務局：平成26年度は知られざるミュシャ展が一番大きかったのかと。

事務局：900万円というのが、昨年度と平成26年度になっており、そのあとはほしい600万から700万円、コロナのときは300万から400万円ちょっといかなない感じが続いていた。

委員：特別企画展がなければなかなか難しいというような状況だと。

事務局：特別企画展が通常の300円と違い800円、2.5倍ぐらいなので、ある程度の入館者が見込めれば、だいぶ収入の方には反映されるが、企画展ではどうしても入込数が落ちる感じが毎年あり、そのへんは考えていきたいとは思っている。

委員：有料観客がどこにお住まいの人が来ているかデータはないと思うが、4年度1万6千人のうち、弘前市以外から来ている人とかはどれくらいかはわかるか、ざっくりどれくらいで、半数とか。

事務局：感じとしては半数とかはいってない。

委員：無料観覧者数が1万人くらいあり、小中学校関係は別として、65歳の高

齢者が多いと思うが、市内で、お金を出して博物館に足を運んでいる人というのは、相当少ないという気がする、全体の中の割合で。もう少し高齢者以外の一般の人が足を運ぶようにできないものかと考えている。市の施設なので、収入を多くすればいいという話ではなく、せつかくの立派な施設を、弘前市民がみんな利用するような、普段でも公園に来たからちょっと帰り寄ってみるかというぐらい、もっと一般の市民が来られないものかと思っていた。

事務局：イベントの時のアンケートを見ると、どういうタイミングで来るかというと、公園に来たついで、とかいう方も、ある程度毎回来るという方もいる。リピーターはいるがそれほどの数にはなっていないところもある。有料の方でも毎回来たいとかいうような何かがあればとは思いますが。常設展等の見直しも話としては出ているが、実行については、通常の企画展等もあり、即見直しをかけるということができない状況であるが、ご意見があったということで。

委員：高齢者だけのものにしない方がいいと思う。

事務局：案件2にもかかってくるが、特別企画展もちょっと毛色の違ったものを入れてみたりしている。

委員：周知の関係で、今、SNSとかを媒体としてやって、私たちも見ることが可能だが、まだ現状とすれば、広報に頼っているところがある。ただ、広報自体が見る見ない、配布される配布されないということもある。町会で回覧物とかもらったり見たりというのがあるが、市民に対しての周知がまだまだ足りない。もう1つ、例えば料金体系も、博物館だけでなく、お城の入館料とか、文化財の建物だとか、いろんなものを含めた、全体のフリーパスみたいな料金体系つくるとか、そういうのが必要になってくるのではないか。石戸谷家（住宅）で、県外から来る方から「入館料とった方がいいんじゃないですか？」といわれる。単体の施設だけではなく、弘前の場合、文化財を含めた観光資源として使っているものが多い。弘前公園の場合、下乗橋から先しか料金をとらない。弘前市民が散歩で使うとか通学路で使っているからというが、市民の方にフリーパスを出せばいい話であって、県外からの収入を含め、来てほしい・見てほしい、それには維持費かかるということはわかっていることなので、そういうことを考えると、弘前全体のパッケージとして考えていく必要が出てくるのではないか。その中でフリーパスだとか買ってくれた方にはダイレクトメールでも流してあげるとか、そういう周知活動をしていった方がいいのかと。小学校・中学校でも、利用率を考えると少ない。学校の場合、12月までに次の年の行事予定というか決めてしまうので、今の時期までに周知して食い込ませてというのが必要になってくると思う。そうなってくれば、入館者も増えるし、1箇所だけではなくて全体に広がっていくことになっていくのではないかと思う。

委員：観光の方では、例えば弘前市内にいろんな施設があるので、全部回ってもらえるようなコースづくりみたいなものと考えれば、今いった話もいいと思う。修学旅行の形態が変わってきて、学習を主にしたような旅行スタイルが変わってきている。講習会があったり、勉強する機会があったりだが、素材としてそういう情報を出してもいいのかなと。そうすれば、博物館とか弘前の歴史みたいなものも教材にしてもらえるとと思う。

委員：学校の場合だと、交通機関、バスがネックが一番なっている。各学校で1回は市のバスを使える、というのがありますが、堀越城とか勝山遺跡とか回る。学校の場合は、大森勝山に行く学校がたぶん多いと思う。ちょうど社会科の授業とか

で触れられているので。博物館に来るとなれば、公園の中のフィールドワークみたいな遠足とか、そういったかたちでここに立ち寄るというパターンが多いと思う。

議長：各学校がバスでどこに行っているのかという確認をとりながらというのは大事かと思う。

委員：学校単位で弘前公園を色々調べて、というのがあり、結構高度な質問を事前に寄せてもらって、我々も調べて説明するが、博物館の中の常設展示で弘前公園、歴代藩主のこととか、いろんな資料が実際にあるので、ガイド後、帰りに博物館に寄って、その辺の弘前市の歴史を実際にものを見て学んでもらえればもっといい、という話ができればいいなと思った。公園に来る小・中学生には、博物館にも寄って、ということができるようシステムをつくれば、もっと勉強になると思った。

委員：特別展とか常設展の展示の入館ではなく、博物館に収蔵されている、普段見られないものを見せるという企画みたいのができると。

委員：別な団体で、町割りの関係の展示をするが、普段見られないものを見ていただくようなことをやると、子供たちはたぶん喜ぶ。住宅地図のような昔の絵図だとか、そういうもののデータを見せるだけでも、子供は喜ぶはずで、そうすれば興味を持って、次、何を調べようかなとか。窓口としては子供でも申請すれば見られるような体制をつくれば、学校の授業だけではなく生涯活動とかでも使える場面がでてくるのではないかと思う。絵馬とかでも絵に興味ある方たちは何でこんなの描いたんだろうといったところからスタートしていくし、もの作りが好きな人は刀とかだったら好きというところもあるので、ちょっと目線を変えてやっていけば、足を運んでもらえるのではないかと。管理的なところで難しいところもあるが。

事務局：当館の収蔵庫がかなり埋まっている状態で、職員が出入りするくらいの通路しかなく、団体が入れるような状況ではない。

委員：中に入って見せるということはいわない、出してきて見せればいい。

事務局：常設展以外、見せる場所も正直ない。

委員：博物館だけで済ませないといけないものと、持ち運びできるものは区別できるわけで、資料次第ではこの会議室でも。博物館だけでと思わないでやればいいと思う。

【案件2意見】

議長：学芸員の方がおひとり、今年度増えたことについてお話いただけるか。

事務局：昨年まで学芸員が2人体制であったが、今年の4月から1名追加になり3名になっている。元々の定員が4名ということで、今年度、美術の学芸員を募集し、先月合格したことを確認しており、順調にいけば来年の4月から4人体制ということで、定員で展示作業を行えることになった。

委員：れんが倉庫美術館では大学生が、ある人数まではタダで入れてくれる。弘前市立博物館は有料なので、学生の意思を尊重し、授業で連れて行くにも聞かなければならないわけで、一挙に連れてくるというのはしにくい。もし学生にも、頻繁に来てほしいということであれば、(タダで入れるよう)検討いただければありがたい。もう1つは、学校の集客を多くすることには、先生の影響がとても大きいと思う。参考までに、上野の国立博物館では、毎週、企画展や大きな展覧会がある時の金曜日、タダで全部の学校の先生に見せている。学校の先生が来や

すいように、夕方、先生方のために全部を見せ、学芸員が説明し、図録までくれるということを宣伝している。地道にそういうことをやっているということも影響があるのではないか。

委員：れんが倉庫の学生無料の件は、スポンサーが寄付する 100 万円まで学生の入場料を無料にしている事業。こちらは市の事業なので、学生を無料にすることができるかは。

委員：学芸員を目指す学生たちの将来のことを考えると、入館料の何百円はとても安いと思う。一般の、学芸員を目指さない学生でも、あらゆる分野からアプローチできるので、学生無料は本当に考えていただきたいということと、先生たちが博物館に来る機会、勉強会を設けていただきたい。先生たちも忙しいとは思いますが、先生の興味、見分の広さによって、子供たちにはかなり影響すると思うので、考えていただければと思う。あと、県外からもたくさん来ているふうな話があったというところで、これからは市外・県外・国外の方にも広く博物館に来ていただきたいと思う。そうなったときに、ポスターは、空港とか路線が通じているところとか駅とかに掲示すると、多くの方々に来ていただけたらと思う。

事務局：JRは有料になるので、予算の絡みで全国というのもなかなか難しく、競争もあるが、可能なところ、資料のやりとりで交流のあるところとか美術館とか、周辺の北東北の道の駅というところには配布し掲示をお願いするようにはしてはいる。

委員：特別企画展なんかだと、例えば東京には行けなかったが、次に巡回(展)を弘前でやるとなれば、わざわざ来るということもあるので、告知は大事だと思う。

議長：今年度、フェイスブックの方も新しくできて、世界発信はしている。時々見るがかなりよくなった。インバウンドとなると、外国人向けのポスターを別につくるところはやったりしている。

委員：今は翻訳アプリがあるので、日本語のポスターがあれば外国の方にもわかると思う。

委員：企画展関連のイベント「バカ塗りピアノ de JAZZ LIVE」に参加したが、非常に良かった。外をライトアップし、音楽が盛り上がるという感じが非常に良くて。この時は6時半までなので、暗くなるまでやって。あれほど人が集まっているのを見たことがないくらい集まった。たまたまバカ塗りのピアノが置いてあったからやった企画かもしれないが、周りには人もすごくよかったです。普段、博物館に足を運ばない人も来たと思うので、年1回くらい、企画展に関連させ、例えばクラシックの弦楽四重奏とか、あまりガンガン音が出ないようなもののライブを夜にかけてやれないものか。前川建築の良さを見直すという意味でも相当が効果あると思う。2025年、前川生誕120年だと思う、20年前に市民会館で100年やっている。再来年はおそらく何か、前川國男関連の建物のなにかがあるかもしれない。そのとき博物館も入るかもしれないが、博物館の機能としての建物でなくて、建築の良さということで見直してもらえ、音楽ファンも参加できるようなものを企画できればいいと思った。

議長：前川建築は、音響効果が非常にいい建物がそろっている。1つ質問で、学校観覧の全小学校のうち14校とか、全中学校のうち5校とか学校の数でいけばそうなんだろうが、生徒数からいけばどれくらいの割合になるのか。

事務局：そこまでは把握できていない。

議長：一般に、弘前の小中学生が上の学校に行ったときに、学校数でいかない場合が多い。大学のなかでも、行ったことある人と聞くと、結局そんなにない。そういう部分も把握していただければと思う。

委員：博物館が、一般の方からするととても入りづらい雰囲気がある、入口のところから。大人でそう思うということは、子供にとってはもっとだと思う。気軽に、子供ひとりでも行けて、気になった資料は心ゆくまで見るとか、そういった場所だと思う。静かに見るとかマナーは必要だが、それ以前に、門戸を広げる雰囲気が必要じゃないかと思う。別の市の取り組みで、ベビーファーストデーというのがあり、ベビーカーに乗せるくらいの小さいお子さんがいるお母さんたちが、企画展、特別企画展を見たくても、育児があるので行けない、この小さい子を連れていけないという人たちがたくさんいるところを、学生との協働で、気兼ねなくベビーカーを押しながら観覧できるという取り組みをされている館が県内にある。学校で来られる状態をつくるのもいいけれども、気軽に行けるような雰囲気づくりは必要だと思う。

議長：具体的にどういう雰囲気だと入りやすいか。

委員：警備員が必要だとは思うが、入口に入ったところにいるので、ちょっと後退りしてしまうような感じがある。あと、監視の方が展示ケースの真横に座っている。よく見たいのになんとか気になり近づけないことがある。あと、例えば、資料の解説をひらがなで書いたものを自由に持って行ってというのは違う館でしたか。

事務局：うちではまだそこまでは。

委員：そういうところもあるので、それだけもらいに行くとか、公園に来たついでにとか、図書館に来たついでに寄ってみる、とか、気軽に。それで博物館で見たものについて詳しく調べたいときは、図書館に寄っていかうとか。さきほど出た共通パス、外部から来た方からお金とるというふうにするのであれば、市内の子供たち以外の人には無料パスを出してもらおうとか。

議長：中の管理の仕方だとかもあるかもわからないし、外見から入りづらいということもあるかもわからない。ベビーファーストデーは、八戸の美術館での試みで、小さい子供たちがワイワイ騒いでもいい日というのがあり、なかなか感じいいというのを聞いていたので、考えていただければ。あとは、閉館時間を対象に合わせて少し遅くまでやる日とか、勤務関係で難しいところあるのかもわからないけれども、考慮できるかと思う。

事務局：ここ何年か、怪談とかで夜はやったりしている。

【案件3意見】

議長：企画展の「雛と兜」の期間が5月6日までということで年度をまたいでいるが、花見期間の調整の部分とか、いろいろ勘案されたのか。

事務局：展示替えのため2週間、どうしても空いたりした。最近、花見が早咲き傾向で、3月末から4月頭まで展示替えをしてスタートというかたちにしてはいたが、それだとロスが出てしまうのではないかということで。あと、人事異動で人が変わったりもするので、慣れない人がやっても間に合わないのではないかとということもあり、年度をまたいでやってみようと、5月のゴールデンウィークまでいっぱいということで、この期間設定にしている。

委員：さきほど県外から来る修学旅行生が、学習も含めて来ると話されていたと思う。弘前市の場合、文化財も含め、いろんな見るところがあるので、歴史の勉

強をするにはかなり充実している都市だとは思っている。博物館だけでなく、図書館、大森勝山もいいし、いろんなところで現地を見て、説明してくれるガイドさんだとかもいらっしゃるが、専門的なところを聞きたいというカリキュラムとかコンテンツを設けてあげると、修学旅行とか学生にとっては使いやすくなるのではないかと思った。受け入れる側の博物館の職員は大変になると思うが、子供も含め、気持ち良く帰ってもらえれば、最初は苦労したと思っても、最後にお礼でもいってもらえれば、かなり報われるとか、やっつてよかったということが出てくると思う。経費の問題は民間でもあることなので仕方ないが、そこは抜きにして、博物館とか資料モノを展示する、見せるところは、挑戦してもらった方がいいのかなと思った。常設展の充実ということをおっしゃっていたので、企画展の労力を、修学旅行生だとか学生のために使うっていう労力もいいのではないかと感じた。

議長：逆にこちらから県外に修学旅行に行って、そこでの学習場面とか機会もつくると思うが、その時の行った先でのやり方とか、対応とかはどうなのか。

委員：学校の中で、例えば弘前市内を回るとなれば、地図を見ながらここへ行くという、グループ研修になると思う。そのときに調べたもの、情報が、ホームページを開けば、こういうのが見られるといったものが充実していれば、寄ってみようかな、行けそうだなとか。そういうのは全部、中学生になれば子供がみんな全部組んでいく。いかにPRして魅力的なものを出していくかというのがやっぱり一番なのだろう。

議長：外から来た人がこういうことを知りたいというのを、事前に博物館の方に質問事項とか、図書館の方で受けたうえで、それについて話をするのができればいいように思うのだが。

委員：私たちも中学校の修学旅行で東京の方に行って職場訪問とかしたが、それと同じ感覚で、事前にここ行ってみるという情報に対して、もっと詳しいところ知りたいならここにあるということをやっておけば、博物館で情報を得て何時にこういう子供が来るという連絡の仕方をしておけば対応はできるのかなと。例えば弘前の市内、弘前教会を見た、いろんなところも見た、でも、もっと教会の資料を見たいとなったときに、図書館とか博物館とか、収蔵のもので貴重なものがあるという情報があれば、子供が直接博物館に連絡するとか図書館に連絡するという場合もあるかもしれない。そういうものに対応してもらえというふうにしていくと、興味もった子たちはやってくれると思う。

委員：北海道の函館とか札幌の方から来る中学生は、弘前というと意外と洋館、お城というイメージよりもむしろ明治期のイメージの方があるみたいで、教会とかを回ったり。うちの学校は今年で150周年迎えて、展示室を学校の中につくり、子供たちもいろんな調べ学習している中で、やっぱり明治の偉人たちに目が行く。で、学校の周りなんかはほぼ、その人達が生まれた場所で、意外と調べてみても何も残っていないというのを、子供たちがすごく残念だという話になっていたりしたので、そういったものが、例えば博物館の中に行くとかいう資料がある、というふうなものが常設されていけば、地元の人たちも、修学旅行で来る人たちも、回って見て最後ここに来た人たちも、もっと深く勉強でき、価値がある。

委員：市内で山車も和徳の米山山車とか山車会館にあるが、今、動くのがあれし

かない。絵図で残っているものも少ない。そういうことで、地元の人たちが地元のこと知らないというのが現状である。市の方では卍学としてやってはいるが、微々たるもので、なかなか浸透していない。その中で博物館に人が来てほしいとか、図書館に足を運んでほしいという話が出てくるのであれば、卍学だけに頼るのではなく、横の連携まではいかないにしても、同じようなことやっているのであれば協力できる場所もあるので、やっていける体制が必要になってくるのではないかと。コロナ禍で、ねふたに出る団体も、出てくる子供も少なくなっている感じを今年受けた。休んでしまうと、太鼓を叩けなくなるとか、笛を吹けなくなるとか、下が育たないとか、いろいろなことが出てくるので、博物館の話からちょっとずれるが、そういう面で地道な活動をしていくことが必要になってくる。宵宮も同じで、賑わいを取り戻したいというあたりで、今だと参道を埋め尽くすほどの人がまた来ていただくようになった。出店があったり、賑わいは出ていたので、それを考えると、子供が楽しむもの、釣るわけではないが、宵宮に来ればこんなものがある、だから宵宮ってこんなに弘前でいっぱいあるのかなとか、そういう疑問をもつ子供たちもいるはず。そういう地道なところをやってみようかというところが、行政ではこれから必要になってくるのではないかとと思う。修学旅行生が学習をメインに来ると話されていたので、そういう点では挑戦してみる価値はあるのではないかと。

事務局：小中学校に限らず、解説がほしいと事前にあった場合、学芸員も忙しいが、可能な限り日程調整等して対応するようにはしている。個人であっても聞きたいことがあって対応可能であれば対応している。

委員：高校生の修学旅行では、コースをつくってテーマを与える。そのテーマについてグループセッションをしたうえで発表するというのが今の修学旅行。そのための会議室があったり、そういうこともする。具体的には、例えば話題になっている弘南鉄道とか、民芸品とかブナコとか、そういうテーマを与えて、こういう問題があってこれを解決するにどうするかと、解答を求めるくらいの中身で、博物館がそれにどう関わっていくかということになると、例えば歴史であれ、縄文の土偶的なものであれ、テーマが必要になってくる。博物館である程度テーマの方を準備する。例えば、満天姫のこととか、石田三成のこととか。最近、弘前の歴史がすごく面白い。学術的にはまだいろいろ問題があるかもしれないが、ストーリーとして面白いので、そのへんがわかるものがあれば掲示してもいいと思う。学術的なものの展示だけで難しいと大変なので、面白いテーマも必要かと思った。あと、SNSを拡散させてほしい。身内から拡散して、面白いイベントがあればそれをまたシェアする。

議長：出前講座のテーマ設定については、来年度追加しようということになっているが。

事務局：今予定していたのが北方警備の関係。江戸時代末期のことも絡んでくるので。

議長：一気に増やさなくてもいいので、少しずつ増やしていけばいいと思う。

委員：北方警備も話の中で1番面白いのが、ずっと歴史の中に埋もれていて発見されたというのが面白い。そういう出し方をすると一般の方が興味を持つ。

委員：昭和29年に東大の近くの古本屋かどこかで、北大の先生が見つけて。確か来年見つかって70年。その関連、タイミングもあるのかと。

事務局：もっと充実しようという話が出て、現在精査している。

委員：それを引っかけてもいいのではないか。

議長：「弘前市史」の方に全文解説されて入っている。

委員：出版もされている、原文と下し文と全部入って出ている。

委員：「バカがつくほど愛してる」の展示、津軽塗のところ、7月に津軽塗の団体が3つ紹介されていて、9月に行ったときに若い人たちの団体も加わっていた。一般の方から、その団体が展示されたことによって混乱してしまったと。博物館の展示と考えると、純粹にももの説明、歴史的背景とかに対する説明だったらいいが、団体の説明、人間関係という説明はいらない。後から入ってきた団体は、映画で出ていたから加えたのかもしれないと考えて見ていたが、そのスペースで、もっと津軽塗の作品を見たかった。映画とすごくコラボされているような宣伝だったが、映画に関連させるのだったら、映画に出てきた、例えばテーブルなんかも、一般的な人は見たかったのでないかと思う。映画に出てこなかったとしても、昔から使っていたものをもっと展示してほしかったということと、映画に関連してやるのであれば、映画の中の、おじいさんの作品とか、関連したもので見せていただきたかった。

議長：企画展、特別展いずれも、まず、すべての展示品が用意されるわけではないので、どういう企画、展示をしていくかというストーリーをつかった上で、展示品をどうするかという展開になる。今回の場合、映画と関係させたところであるが、本当にそれでいいのかとか、映画館の中で展示しているものもあり、こっちでやる必要あるのかとか、様々あるとは思いますが、来年度の企画展も同じように、いろんなこと考えながら展示品を選択していくということになるかと思う。例えば、何でこれが入っていないんだとか、そういう批判とか批評とか出てくるだろうと思うが、それは様々な点を踏まえたいうでの展示品だということに理解いただければと思う。ただし、こういう見方をされている一般の観覧者もいるんだということをご意見として受け止めていただければと思う。いろいろ伺うと、単に博物館だけの話ではとどまらない部分がたくさん出てくるが、逆にいうと、それだけ市立博物館を核として、いろんなことができるということのあらわれと思っているので、今までやってきたこと、蓄積されたことに自信を持たれて、新しいところを1つずつ加えていっていただければと思った。

委員：埋蔵文化財調査センターの埋文カードが置かれていないので聞いたらなくなつたと。

事務局：追加で猪のカード、来るような話はしてたが、届いていない。

委員：断られたとお聞きしたが。

事務局：うちにはない資料のものなので。展示していますかといわれても、展示していないもの、埋文センターにある資料のカードまでうちに置くというので、それはちょっと困るという話で。

委員：弘前市立博物館に収蔵しているものであれば。

事務局：それ以外のもので、というかたちできたが、そのあと音沙汰がなくなった。

委員：アクリルの小さい（スタンド）、ガチャがさくら野の3階のカネイリまで行かないとできない。

委員：博物館の中にガチャを置けばいい。そうすれば子供が来る。

委員：受付に飾ってあるのにそこにはない。

委員：一般の方が不思議に思う。いろんなことがあると思うが、例えば図録は販

	<p>売しても特別企画展のポストカードとかクリアファイルは匠館に行かないといけないとか。</p> <p>委員：今、博物館に許可いただいて町割りの絵図を展示するが、撮影禁止で立ち合いがいてやらないといけなかったりする。それでもさっきしゃべった現物の写真とかデータを見れば、ものを見たいという子供とか学生、一般の方でも出てくると思うので、そういう企画展がほしい。図書館でもたまにやったりするがそういうのがあれば面白い。</p> <p>議長：撮影の許可とか、ハードルが高い部分もあるが、市博だけの話ではない。それらの情報も含めながら、クリアできるものは1つずつやっていただければ。ガチャの話も、そこで販売できる組織があればいいが、ないので。そのへんも含めて要望として、取り入れられるところは取り入れていただくようなかたちで進めていただければと思う。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は公開 ・傍聴者数 0人